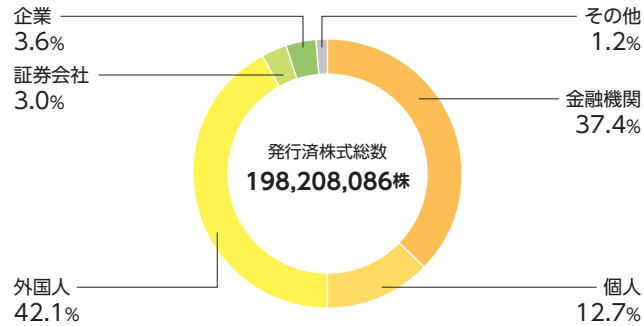


■ 株式の情報 (2016年9月30日現在)

大株主の状況

順位	株主名	所有株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	22,586,400	11.40%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	17,506,000	8.83%
3	資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	4,490,800	2.27%
4	MSCO CUSTOMER SECURITIES	4,266,649	2.16%
5	三井生命保険株式会社	3,591,000	1.81%

所有者別分布状況



(注) その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式です。
(注) 個人は、個人・持株会名義の株式です。

■ 当社IRサイトのご案内



「株主・投資家の皆さまへ」より、IR情報や資料がご覧頂けます。

■ 株主メモ (2016年9月30日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
基準日	定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日 その他あらかじめ公告して定めた日
定時株主総会	毎年6月下旬
公告掲載	電子公告により、当社ホームページ (http://www.alps.com/j/ir/index.html) に掲載します。なお、やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京(第一部) 証券コード6770
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ホームページ http://www.tr.mufj.jp/daikou/ 三菱UFJ信託銀行証券代行部

株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター
お問い合わせ ☎ **0120-232-711**
(受付時間: 土・日・祝祭日を除く平日9:00~17:00)
住所変更等諸届用紙ご請求 ☎ **0120-244-479** (24時間受付)

ALPS REPORT

第84期 第2四半期報告

アルプス電気株式会社 2016年11月29日発行

特集

ALPS SHOW 2016 開催

～つながる、ひろがる、安心で快適な社会。～



人と地球に優しい、快適な未来を。

No.165

証券コード: 6770



アルプス電気株式会社 代表取締役社長 栗山年弘

皆様へ

年の瀬に入り、朝夕の冷え込みが厳しくなってきました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

上半期の世界経済は、米国では依然として拡大が続くものの、欧州では拡大基調ながら、英国EU離脱の影響から、不透明感が続きました。また、中国では経済成長の減速が続く一方、各新興国は底堅く推移しています。日本では、雇用は堅調で、個人消費も底打ち感があるものの、円高傾向などから足踏み状態が続きました。

この状況下、当社では車載市場向け製品で、各種入力用モジュール、通信モジュールを中心に堅調な売上を維持しましたが、モバイル市場向け製品では、カメラ用アクチュエータで、一部に生産タイミングの変更が生じて軟調となりました。EHII市場では、子会社の再編や海外電力会社との協業契約締結など、同市場での事業基盤の確立と将来の拡大に向けた取り組みを進めました。

この中で上半期の業績は、為替変動の影響を大きく受け、売上・利益ともに期初の計画を下回りました。

さて、去る9月、2年に一度のプライベートショー

「ALPS SHOW 2016」を本社ビルで開催しました。

モバイルや自動車はもとより、IoT、バーチャルリアリティ(仮想現実)、省エネルギーなど、新市場に多数の提案を行った今回、台風接近で悪天候ながら、3日間の来場者数は会場を本社ビルとして以来、最高となりました。お客様からは「各市場への準備がいち早く進められている」など、高い評価を頂くことができました。

個人株主様ご招待には、多数ご応募を頂き、誠にありがとうございました。心苦しくも抽選となりましたが、今後も皆様との対話の機会を大切にまいります。

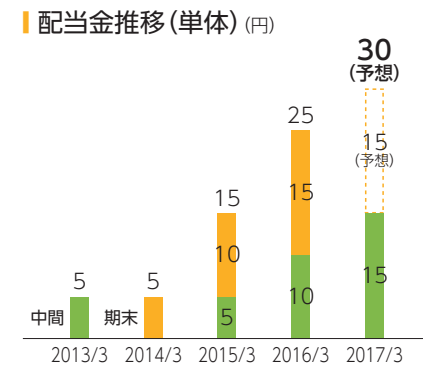
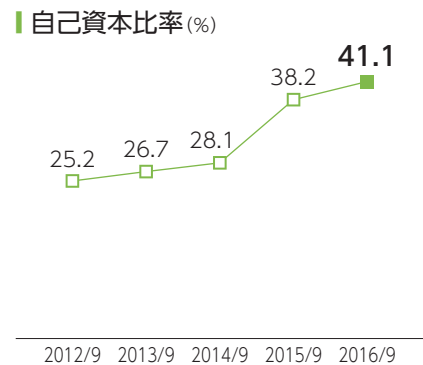
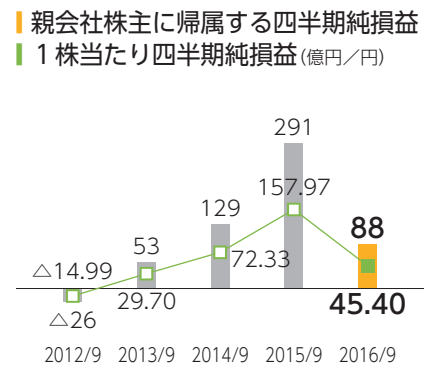
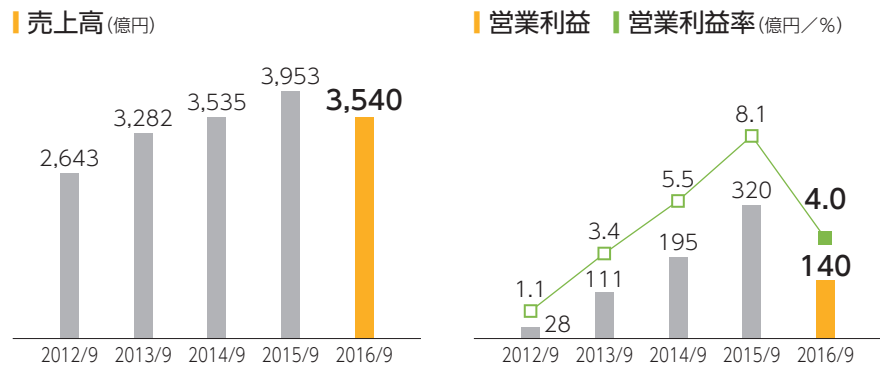
今後、既存製品はもとより、これらに出品した多くの新製品をいち早く拡販につなげ、更なる業績向上への取り組みを加速させる所存です。

なお、当期の中間配当金は15円を予定しており、今後も株主の皆様のご期待に応えられるよう、一層の努力を重ねてまいります。

皆様には、今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

EHII: Energy, Health care, Industry, IoT (エネルギー、ヘルスケア、インダストリー、IoT)
IoT: Internet of Things (インターネット・オブ・シングス)

〔連結業績の概況〕



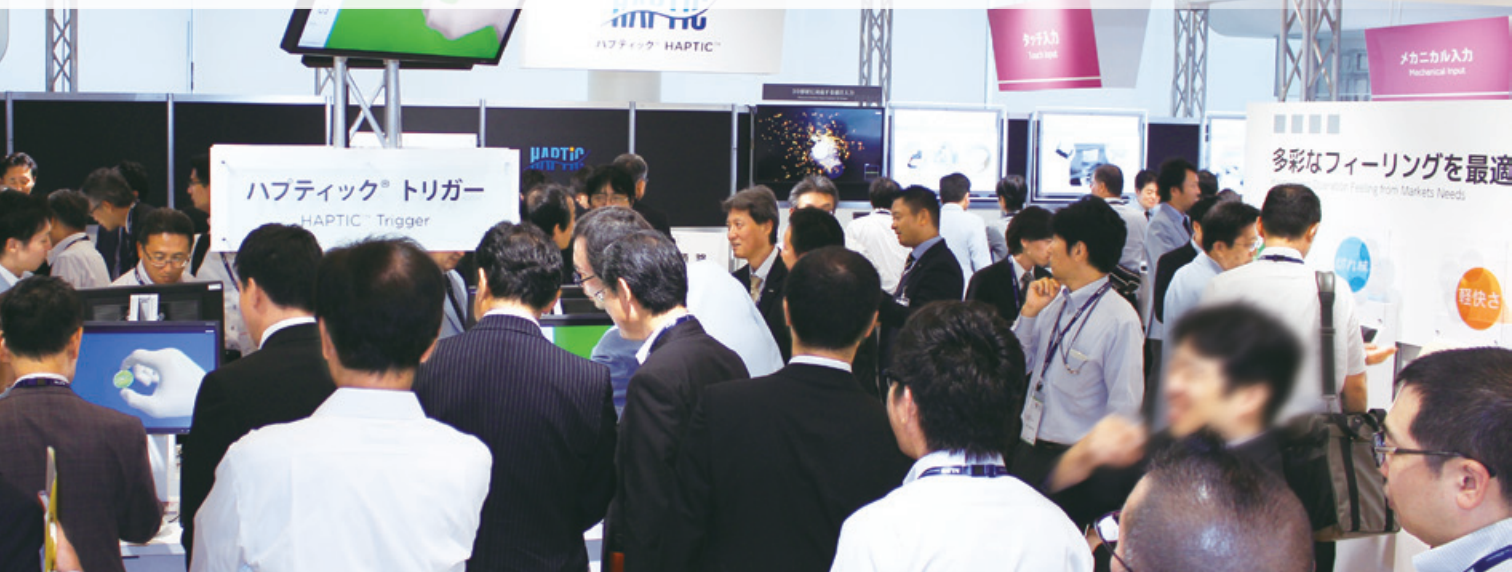
通期の見通し(2016年10月28日修正開示)

2017年3月期 業績予想	
売上高	7,190億円(前期比 △7.1%)
営業利益	380億円(前期比 △27.4%)
経常利益	345億円(前期比 △31.1%)
親会社株主に帰属する当期純利益	255億円(前期比 △34.7%)

※想定為替レート:米ドル/円 100・ユーロ/円 110



つながる、ひろがる、
安心で快適な社会。



HAPTIC
ハプティック® HAPTIC

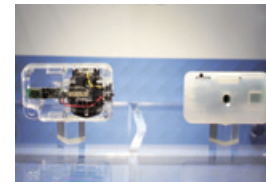


センサネットワークから通信・クラウドまで、IoTを支える当社の技術

期待のIoT市場に向けて、各種センサ・通信モジュールを組み合わせた「IoTスマートモジュール」の新製品や近赤外分光センサなどを展示。また、これらを利用し、工事現場での作業者の状態や、建物内個室の使用状況・地震の揺れ、農地の水位や温・湿度などさまざまなモニタリング提案を行いました。

IoT Smart Module

各種センサ(気圧、UV・照度、温・湿度、加速度、地磁気)を搭載し、センシングされたデータをBluetooth®で通信するIoT開発者に向けたキット。センサを追加拡張するためのコネクタやデータログ保管機能も搭載。更に端末を使用した電池残量や設置場所の管理も可能とした実用性の高い製品です。



IoT Smart Module

ウェアラブル近赤外分光センサ

波長の異なる2種類の近赤外LED光を身体の一部に当てただけで、血液中のヘモグロビン変化や酸素濃度、脈拍などが高精度に測定できるセンサです。IoT技術と連携し、工場や建設現場などで作業者の体調管理や危険防止を実現するための商品開発にも取り組んでいます。



近赤外分光センサ

9月20日～22日、国内外のお客様、お取引先各社を対象に、当社最新の製品・技術及びさまざまな提案を一堂に揃えたプライベートショー「ALPS SHOW 2016」を当社本社ビルにて開催。テーマ「つながる、ひろがる、安心で快適な社会。」の下、「HMI」「Sensor」「Connectivity」の各コーナーで各市場に向けた最新の取り組みを展示。

今回は、特に注力した3つの分野、「IoT」「Connected Vehicle」「HMI」をご紹介します。

個人株主様をご招待

9月22日、多数の応募を頂いた中から抽選により、当選された200人の個人株主様をご招待。当日は取締役の挨拶、ショー概要説明の後、会場にて当社製品をご体感頂きました。



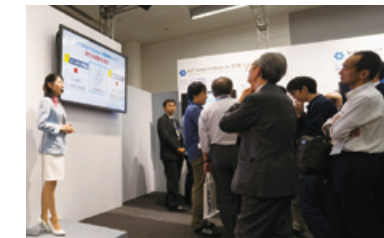
個人株主様説明会の様子

Column コラム

プレゼンテーションステージでは、IoT Smart Moduleにスポットを当て、IoTにおける当社の最新の取り組みをご紹介します。

当社が長年培ったセンサ、通信モジュール技術、それぞれを融合した製品の優位性をアピールするとともに、実証実験を重ねながら、高度化・多様化するIoTに求められるソリューションを提供している取り組みも説明。

更に各社とのコラボレーションにより、ヘルスケア、農業、設備監視、防犯、防災などさまざまな広がる具体的な事例を紹介することで、連日大きな注目を浴びました。



IoT Smart Module について興味深く耳を傾ける来場者



人・街・家とつながるクルマ

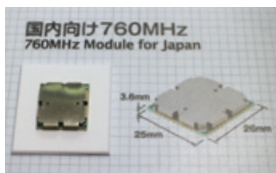
Connected Vehicle

安全運転支援、自動運転システムと急速に進化する自動車に向け、ドライバーの視線検知技術をはじめ、V2XモジュールやGNSSモジュールなどクルマとクルマ、クルマとインフラ、クルマと人がつながる通信モジュール、各種センサなどを紹介しました。

V2X: Vehicle to Infrastructure/Vehicle to Vehicle/Vehicle to Pedestrian
GNSS: Global Network Satellite System

V2Xモジュール

ADAS (先進運転支援システム) など、将来の自動運転実現に向け、高周波回路技術を駆使してモジュール設計し、世界に先駆け量産を開始したV2Xモジュール。クルマ同士(車車間) やクルマと信号機等の交通インフラ(路車間) との通信によって、自動車事故未然防止に貢献します。



国内向けV2Xモジュール

スマートフォン利用キーレスエントリーシステムモジュール

カーシェアリングが今後ますます普及してくる中、スマートフォンをクルマのキーの代わりとするニーズが高まっています。当社では実績のある各種センサや通信技術を生かし、あらかじめ個人認証データを登録済みのスマートフォンを持った運転者がクルマに近づくことで、ドアのロックを解除、運転席に着座することでエンジン始動が可能になるシステムを提案しています。



カーシェアリングを見据えた次世代キーレス技術



キーレスエントリーシステムモジュール

Column コラム

急速な技術革新が進む自動車に向けた、当社のさまざまな提案を映像と実動展示によって訴求。

「人・街・家とつながるクルマ」のテーマに沿って、映像では自宅から出発し帰宅するまでの流れとともに、運転中の視線検知やV2Xモジュール、GNSSモジュールなど車載用通信モジュールの実証実験を紹介。

実動展示では、カーシェアリングを見据えた、スマートフォンによる次世代キーレス技術などを紹介。当社の製品力、提案力に来場者から高い評価を頂きました。



プレゼンテーションステージの様子



こだわりのフィーリング技術で新たなHMIを訴求

HMI

Human-Machine Interfaces

ハプティック®トリガープラスやハプティック®リアクタなどさまざまな触感を生み出すフィードバック技術の実動展示を中心に、静電タッチインプットモジュールや薄型電子シフターなどクルマ向けHMIモジュール製品を出品。加えて操作フィーリングにこだわった各種スイッチ、エンコーダなど、圧倒的な製品バラエティーとともに紹介。

ハプティック®トリガープラス

当社のフィードバック技術を駆使した「ハプティック®トリガープラス」。手に持ったコップ形状のコントローラの振動、温度、圧力の変化により、紙コップに冷たい水が、また湯呑みに熱いお茶が入ったような触感が得られるもので、バーチャルリアリティを体感できるデモは、来場者から高い注目を浴びました。

各メディアからの取材も多く、テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」やフジテレビの「とくダネ！」でも紹介されました。



ハプティック®トリガープラス

静電タッチインプットモジュール

クルマのディスプレイ、エアコンやオーディオなど入力操作を集約した提案展示を実施。ディスプレイはタッチ入力可能な他、左右の円形ノブはハプティック®ロータリーノブにより機能に応じて操作フィーリングが変化。また下部にもハプティック®を搭載したタッチパッドを配置し、振動フィードバックによって運転者に確実かつ直感的な操作環境を提供します。

ハプティック®はさまざまな触感を作り出すことで、より安全な運転をサポートします。

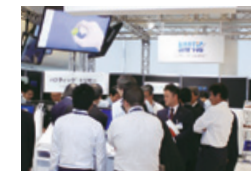


静電タッチインプットモジュール

Column コラム



ハプティック®とはモノに触れた感覚(=触感)を意味します。当社が長年、研究開発や製品展開してきたこのハプティック®は、操作時のさまざまな触感を人工的に再現するフィードバック技術です。バーチャルリアリティのゲームコントローラや、将来的には医療分野における遠隔操作などへの応用が期待されています。



ハプティック®展示コーナーの様子

8月 August 2016年

イマージョン・コーポレーション様とPC向けフォースフィードバック技術に関するライセンス契約を締結

近赤外分光生体モジュールセンサの開発・販売で「大学発ベンチャー表彰2016」特別賞をジーニアルライト株式会社様、光産業創成大学院大学とともに受賞

9月 September

アルプス・シンガポール創立30周年

韓国アルプスが韓国電力公社様との協約に調印

「ALPS SHOW 2016」開催

業界最小サイズの圧接コンタクト絶縁コート付タイプ開発・量産開始を発表

10月 October

連結子会社アルプス・グリーンデバイス(株)、栗駒電子(株)を吸収合併

「CEATEC JAPAN 2016」に出展

2016年度第2四半期決算、通期業績修正を発表

韓国アルプスが韓国電力公社様との協約に調印

当社海外現地法人である韓国アルプスは9月9日、韓国電力公社様と、韓国におけるエネルギー新産業分野の推進及び同国・羅州に造成中のエネルギーバレーでのR&D活性化に向けた相互協力に関する協約を締結しました。

これにより、アルプス電気グループが保有する各種センシング技術やデータ通信技術と、韓国電力公社様の電力関連技術を融合することで、韓国内の電力網の監視や電力の有効活用など、電力IoT分野での新市場創出に取り組めます。



協約に関する調印式の様子:左から韓国電力公社 趙社長、許社長、韓国アルプス 姜社長、当社 栗山社長

「CEATEC JAPAN 2016」に出展

10月4日～7日、当社は千葉県・幕張メッセで開催された「CEATEC JAPAN 2016」に出展しました。

当社ブースでは、HMIやセンシング、コネクティブィ、及びモジュール化技術を生かしIoT*市場への各



多くの来場者で賑わう当社ブース

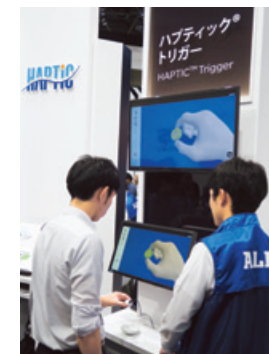
種提案と豊富な事例を紹介しました。中でも、多彩な触感を創出するHMIの最新デバイス「ハプティック®」を体感できるコーナーは特に高い注目を集め、連日展示コーナーには、体験を希望される方々の列が続きました。また、会期前日に行われたオープニングレセプションでは、安倍総理大臣、世耕経済産業大臣、高市総務大臣にご紹介しました。

また、国内外のマスコミ各社やテレビ局による撮影、取材も多数行われるなど連日多くの皆様にご来場頂きました。

※IoT、ハプティック®については、特集「ALPS SHOW 2016開催」でご紹介しております。ご覧ください。



IoT市場への各種提案を紹介



注目を集めた「ハプティック®」体感コーナー

アルプス電気の
広告紹介
vol.3

Green・環境編

ものづくりにかける思いを
広告にしました。
前号の「Sensing」編に続き、
「Green・環境」編をご紹介します。



この星に暮らす人々に寄り添って働く電子部品。だから、地球環境を思う気持ちはあなたと一緒に。部品自体の省エネ化や軽量化で、あるいは電流センサなどエネルギーマネジメントに貢献する製品で、培ってきた技術を駆使しながら、スマホやパソコン、車、発電所と消費地を結ぶ送配電線など、様々な場所で低炭素社会の実現に向けて努力しています。ひとつひとつは小さな力でも、集まればきっと大きな力になる。私たちは見えない所から、今日も青く広がる空を願い続けています。生き生きとした細胞が生き生きとした命を作るように、小さく柔軟な電子部品で、暮らしに、未来に、新たな息吹を吹き込む。私たちはアルプス電気です。

世の中を動かす
細胞。アルプス



ALPS 株式会社 www.alps.com/jp
それぞれの方で、つながる力で、新たな価値を創造するアルプスグループ。
ALPNE Driving Haptic Hetero Innovation

2016年3月1日 日本経済新聞掲載

小さいけれど、青空を守る力になりたい。電子部品も地球の一員ですから。

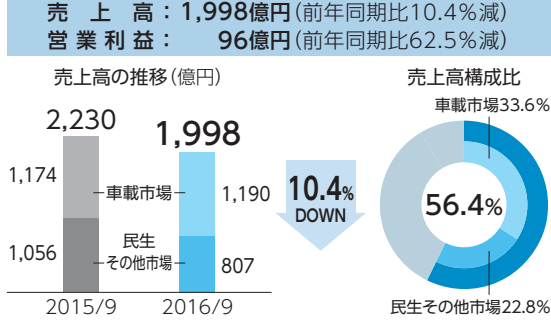
この星に暮らす人々に寄り添って働く電子部品。だから、地球環境を思う気持ちはあなたと一緒に。部品自体の省エネ化や軽量化で、あるいは電流センサなどエネルギーマネジメントに貢献する製品で、培ってきた技術を駆使しながら、スマホやパソコン、車、発電所と消費地を結ぶ送配電線など、様々な場所で低炭素社会の実現に向けて努力しています。ひとつひとつは小さな力でも、集まればきっと大きな力になる。私たちは見えない所から、今日も青く広がる空を願い続けています。

電子部品事業



為替変動の影響が大きく減収減益

車載市場では各種入力モジュール及び通信モジュールが堅調を維持しましたが、民生その他市場ではスマートフォン向けコンポーネント製品が軟調に推移。EHII市場では、事業基盤の確立及び将来の拡大を見据え、子会社再編や海外電力会社との協業契約を締結するなど、取り組みを進めましたが、為替変動の影響を大きく受け、前年同期比で減収減益となりました。



車載市場 自動運転の実現に向かって堅調推移

カーエレクトロニクスの重要性が高まる中、電子シフターや各種操作入力用モジュールなど全般にわたって堅調に推移しました。国内製造機能の強化及び生産効率の向上を目的とし、車載製品製造を担当する連結子会社栗駒電子(株)の吸収合併の発表を行いました。

民生その他市場 カメラ用アクチュエータが軟調

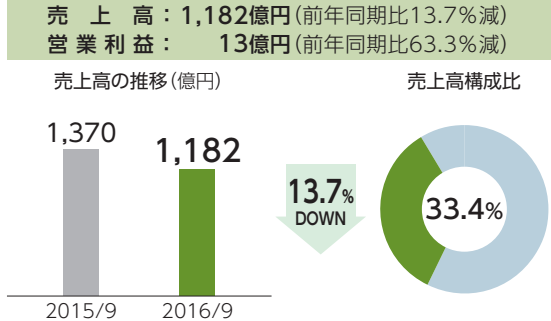
モバイル市場ではカメラ用アクチュエータで生産タイミングの変更などから軟調傾向となりました。EHII市場では連結子会社アルプス・グリーンデバイス(株)の吸収合併の発表や韓国電力公社様との協業契約締結などを行いました。

車載情報機器事業



自動運転の時代を見据え、事業基盤の強化

アルパイン(株)(東証一部)では、自動車の自動運転時代を見据え、日本アイ・ビー・エム株式会社様と共同で次世代車載システムの開発をスタートさせるなど、事業基盤の強化に取り組みましたが、為替変動の影響が大きく、厳しい状況で推移しました。

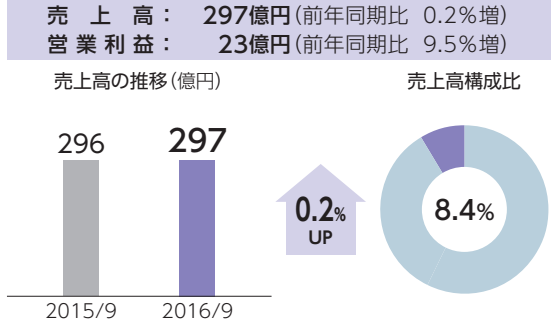


物流事業

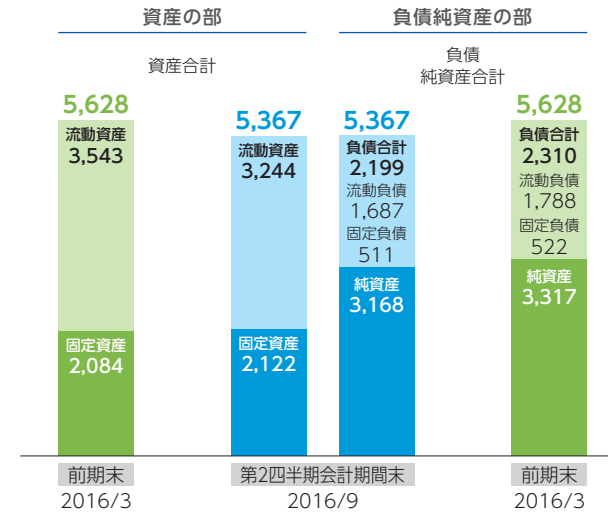


アセアン地域において、現地法人化に向けた取り組みを継続

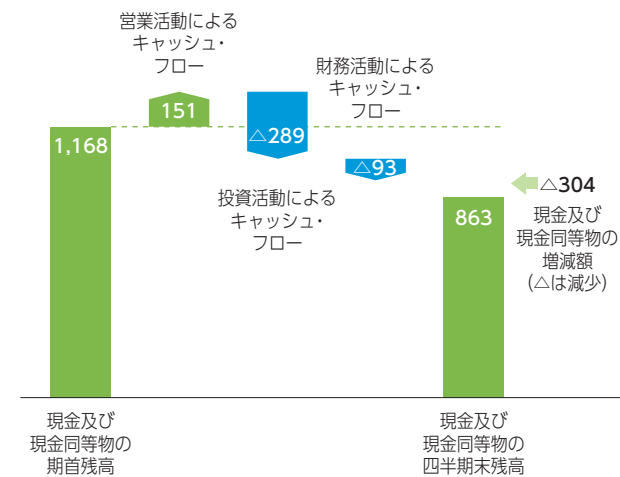
(株)アルプス物流(東証二部)では、グローバルネットワークの拡充を図り、国内外が一体となった提案営業の推進に加え、運送・保管・輸出入各事業の向上に取り組みました。また、重点戦略地域のアセアンにて、現地法人化に向けた取り組みを継続しました。



連結貸借対照表の概要(億円)



連結キャッシュ・フローの概要(億円)



設備投資・減価償却費・研究開発費の推移(億円)

※内訳には連結消去を含んでおりません。

